



EARTH & FOREST

土木学会 地球環境委員会

***** 目 次 *****			
巻頭言	地球環境委員会 委員長	太田 幸雄	P. 1
第 18 回地球環境シンポジウムの報告	実行委員会 委員長	奈良 松範	P. 3
第 18 回地球環境シンポジウム受賞報告			P. 6
地球環境優秀講演賞を受賞して	島根大学汽水域研究センター	都筑 良明	P. 8
地球環境貢献賞を受賞して	茅野商工会議所 専務理事	白川 元	P. 9
土木学会全国大会研究討論会のご報告	地球環境委員会 幹事長	村尾 直人	P. 10
第 19 回地球環境シンポジウムについて			
第 19 回地球環境シンポジウム実行委員会 幹事長	茨城大学	桑原 祐史	P. 11
政策研究小委員会の創設	政策研究小委員会 小委員長	荒巻 俊也	P. 12
地球環境委員会 委員長・委員・幹事の公募について	地球環境委員会 幹事長	村尾 直人	P. 13
地球環境委員会 平成 22 年度 委員会・幹事会の構成			P. 14
地球環境委員会からのおしらせ			P. 15

巻頭言

地球環境委員会 委員長 太田 幸雄(北海道大学)

地球環境委員会は、土木学会の各部門が地球環境問題に対して総合的かつ横断的に取り組むことを目的として設置された委員会です。1992 年 10 月に東京の星陵会館において「地球時代の土木」と題して設立シンポジウムを開催しました。このシンポジウムには 300 人以上の皆様が参加され、熱気にあふれた講演と討論が行われて、土木界の地球環境問題解決に向けた熱い意気込みが示されました。



この発足以来 17 年が経緯しましたが、現在、地球環境問題はますます深刻となりつつあります。しかしながら、この地球環境問題に対する対策は、未だ初期的な取り組みしかなされていません。このような状況から、地球環境委員会の果たすべき役割は、ますます広くまた緊急性の高いものになって来ています。平成 19 年度に土木学会において会長特別委員会として「地球温暖化対策特別委員会」が発足しました。地球環境委員会では、松岡譲前委員長、米田稔前幹事長および委員、幹事全員がこの特別委員会の運営に積極的に参加し、平成 21 年 3 月まで精力的に活動してきました。それらの成果は、平成 21 年 5 月に報告書としてまとめられています。

地球環境委員会では、この活動結果について、平成 21 年と 22 年の土木学会全国大会において、「地球温暖化対策－土木学会はいかに行動すべきか－」をテーマとして研究討論会を開催してき

ました。すなわち、平成 21 年度の福岡大会においては、土木学会地球温暖化対策特別委員会の研究活動により提示された「土木界において実施すべき緩和策（温室効果ガスの排出抑制策）」を受けて、研究討論会を開催しました。以下の 4 課題について講演をお願いし、質疑討論を行っています。①特別委員会において提示された内容の概要説明、講演者：荒巻俊也氏（東洋大学国際地域学部）、②土木材料からの温室効果ガスの排出量削減および土木施設からの排出量削減、講演者：曾根真理氏（国土技術政策総合研究所）、③低炭素エネルギー技術の開発と支援、講演者：大石和人氏（東京電力（株）技術開発研究所）、④都市・交通計画による低炭素都市システムの構築、講演者：森本章倫氏（宇都宮大学大学院工学研究科）。

平成 22 年度の札幌大会においては、「土木界において実施すべき適応策」を受けて、研究討論会を開催しました。やはり、以下の 4 課題について講演をお願いし、質疑討論を行っています。①温暖化適応策小委員会における検討内容の概要説明、講演者：山田正氏（中央大学理工学部）、②温暖化適応策への水工学からの寄与、講演者：井上智夫氏（（財）リバーフロント整備センター）、③温暖化適応策への海岸工学からの寄与、講演者：横木裕宗氏（茨城大学工学部）、④温暖化適応策への環境工学からの寄与、講演者：佐藤弘泰氏（東京大学大学院新領域創成科学研究科）。

両研究会ともに 120 名以上の出席者を得て、各講演者の講演の後、活発な質疑討論が行われました。近年の地球温暖化問題においては、世界各国の代表的な予測モデルが共に 2100 年までの間に 1.8～4.0℃の気温上昇を予測しており、残念ながら今後の気温の上昇および気候の不安定化は避けられないものと思われます。このような温暖化、気候変動に対して、土木界では、どのような温室効果気体の排出抑制策および温暖化に対する適応策をとることができるのか、とるべきなのか、土木学会の会員の皆様が非常に大きな関心を抱いておられることの現れと思います。

地球環境委員会の今後の活動を考えるとき、地球環境委員会が、この温暖化および気候変動に対する抑制策と適応策について土木学会のすべての分野の皆様が一同に会して共に考えていくための共通の場となることが求められています。このことは、地球環境委員会の設立時の基本的考え方、すなわち、「地球環境委員会は、土木学会の各部門が地球環境問題に対して総合的かつ横断的に取り組むことを目的として設置された委員会である」ことをもう一度思い出し、たちかえることを意味しています。

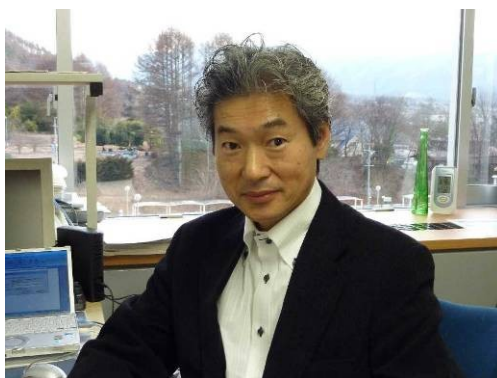
現在の地球環境委員会は、設立当初に比べて、参加し活動している委員会が少なくなってきました（残念ながら 5 委員会程度）。今後、多くの委員会に働きかけ、また、行政の現場の方にも参加していただき、再び、地球環境委員会が、温暖化問題、気候変動問題への対策を考えていくための「土木学会全体を横断した委員会」として活動していくべきであると強く考えます。

第 18 回地球環境シンポジウムの報告

第 18 回地球環境シンポジウム 実行委員会 委員長

奈良 松範(諏訪東京理科大学)

この度、長野県茅野市に在ります諏訪東京理科大学で地球環境シンポジウムを開催させていただきました。当地は、蓼科高原、車山高原、霧ヶ峰高原、白樺湖などの自然資源が豊かで、数多くの温泉もあります。また、縄文時代の遺跡が多く発掘されており、特に、縄文のビーナスと呼ばれている土偶は貴重な文化遺産です。このような地での開催により、研究の発表による緊密なコミュニケーションは勿論のこと、自然環境の良さも同時に体験されたのではないかと思います。今年から八ヶ岳スーパートレイルという八ヶ岳を 1 周するトレッキングルートが開設され、その利用者も徐々に増えており、加えて地元で開発されたアンチエイジング・トレッキングと呼ぶ健康増進のためのプログラムが始まっています。このプログラムではトレッカーの心理・生理測定を行うことによりトレッキングの効果を科学的なデータとして提供しています。今回の一般公開セッションでは、このあたりの自然を利用した地域活性化に関する話題を提供していただきました。



さて、本題である研究発表件数は A 論文 18 件、B 論文 22 件、合わせて 40 件、ポスター発表は A 論文 1 件、B 論文 7 件、パネル 6 件の合計 14 件、企画セッションの講演 8 件、一般公開セッションの講演 11 件、さらに地元自治体や企業からのポスター参加が多数あり、たいへん活発なシンポジウム及びフォーラムを実施することができました。

研究発表は、環境負荷、方策・モデル・評価、海洋・水環境、気候変動、エネルギー、及び材料の 6 分野に分かれて行われました。たいへん興味ある研究や新しい知見が数多く報告されました。これらの内容は今後の研究の発展に寄与するものと期待されます。また、ポスター発表においては、最先端の研究成果の他にも長野県の環境施策や地元の環境保全活動について展示が行われました。企画セッションにおいては、国における環境施策を環境省及び国土交通省より紹介していただき、そして自治体や環境団体の環境施策並びに活動についても紹介していただきました。環境問題は政府と企業そして市民の協働作業で解決することが不可欠であるということを考えると、3 当事者間のコミュニケーションの場を提供できたのではないかと考えています。さらに、一般公開セッションの「地球環境フォーラム」では、「自然と環境」というテーマで地域経済の活性化方策について、さらに GIS の活用についてパネルディスカッションをしてもらいました。自然豊富な開催地の特徴を生かした議論ができたのではないかと考えています。

最後に、2 日間にわたって開催された本シンポジウムを振り返ってみますと、大学への交通の便が悪くとも関わらず、多くの方に参加していただきました。また、今回シンポジウムの結果が本年の地球環境シンポジウムの開催にあたり参考になるような部分があればありがたいと思っています。参加された皆様及び開催にご尽力いただきました皆様に、感謝して締めくくりたいと思います。ありがとうございました。これからも、地球環境シンポジウムに参加していただけることを楽しみにしています。

第 18 回地球環境シンポジウムの記録写真

諏訪東京理科大学、2010 年 8 月 27 日～28 日



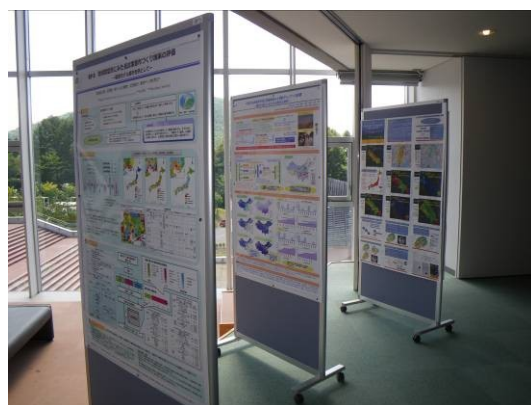
・諏訪東京理科大学



・研究発表



・ポスター発表、パネル展示



・懇親会





・地球環境フォーラム



・表彰式



第18回地球環境シンポジウム、および、地球環境フォーラムは、2010年8月27日～28日に諏訪東京理科大学を会場に開催されました。たくさんのご支援とご参加ありがとうございました。

奈良松範実行委員会委員長、大西文秀実行委員会幹事長をはじめ、第18回地球環境シンポジウム実行委員会の皆さまお疲れ様でした。

第 18 回地球環境シンポジウム受賞報告

諏訪東京理科大学、2010 年 8 月 27 日～28 日

地球環境委員会では地球環境委員会委員長らからなる表彰小委員会委員らによる厳正なる採点により 4 つの賞を設定し授与しています。昨年度と今年度の受賞者を報告させていただきます。

■受賞概要

【地球環境論文賞(JSCE GEE Award)】

「太平洋岸地域における地球温暖化による高潮浸水被害の予測」

○鈴木 武（国土技術政策総合研究所）

「八重山地方沿岸域における降雨に伴う土砂・栄養塩動態の現地観測」

○大澤 和敏、久保田 龍三朗、池田 駿介、赤松 良久、乃田 啓吾（宇都宮大学）

「MODIFICATION OF FIRE MODULE IN LPJ-DGVM FOR APPLICATION IN TROPICAL AREA : A CASE STUDY OF WEST KALIMANTAN」

○Arno Adi KUNTORO、Takao YAMASHITA、Ade WAHYU（Hiroshima University）

【地球環境優秀講演賞】

「気圧センサ IC タグの開発による簡易気象観測システムの実現」

○齋藤 修、宮部 紀之、桑原 祐史、安原 一哉（茨城大学）

「MUNICIPAL WASTEWATER POLLUTANT DISCHARGE REDUCTION : POSSIBILITIES OF “SOFT INTERVENTIONS” IN HOUSEHOLDS IN JAPAN AND IN THAILAND」

○Yoshiaki TSUZUKI（Shimane University）、Thammarat KOOTTATEP（Environment Engineering and Management, Asian Institute of Technology）、Yuttachai SARATHAI（Water Quality Management Bureau, Pollution Control Department, Thailand）、Masato FUJII（Yamato-gawa River Office, Ministry of Land, Infrastructure and Transportation）、Yasuo MOCHIHARA（Yodo-gawa River Office, Ministry of Land, Infrastructure and Transportation）、Kouki MATSUDA（Yamato-gawa River Office, Ministry of Land, Infrastructure and Transportation）、Minoru YONEDA（Kyoto University）

「沖縄の漂着ゴミ汚染と有害化学物質～廃油ボールと球管類ゴミ～」

○山口 晴幸（防衛大学校）

【地球環境技術賞】

「農業用水路を利用した小水力発電について」

○株式会社ヤマウラ

「WebGISによる流域環境コミュニケーションシステムの開発」

○中央開発株式会社

【地球環境貢献賞】

「信州・車山高原 アンチエイジングトレッキング」

○茅野商工会議所

「沖縄県石垣島赤土流出問題～地産地消普及による営農対策の提案～」

○芝浦工業大学学生プロジェクト



4 賞の授賞式は、第 18 回地球環境シンポジウム、地球環境フォーラムの閉会式とあわせ、地球環境委員会の太田幸雄委員長より賞状の授与が行われました。

受賞者の皆さま、おめでとうございます。

お二人の受賞者に受賞のメッセージを寄稿していただきました。

受賞者からのメッセージ：地球環境優秀講演賞を受賞して

都筑 良明(島根大学 汽水域研究センター)

太田委員長をはじめとする委員会の方々に、地球環境優秀講演賞の授賞につきまして、共著者を代表して御礼申し上げます。今年の地球環境シンポジウムは、諸事情により失礼しようかと思っておりましたが、思いがけず授賞のご連絡をいただき、2日目の午後（地球環境フォーラムと閉会式・授賞式）のみ参加させていただきました。

授賞論文は、大和川流域の生活排水対策社会実験をテーマにして、生活排水の環境家計簿を用いた検討を行うとともに、タイへの適用、経済学的側面等について検討したもので、今回の授賞は、連名者であるタイの共同研究者、大和川河川事務所の皆様、大和川流域委員会委員を務められておられる米田先生のお力添えをいただいたものと感謝しております。

大和川関連の研究発表論文等につきましては、その後、2009年には9月にブリスベーン（オーストラリア）で開催されました International Riversymposium, ソウル（韓国）で開催されました IWA の DIPCON2009 でも関連の発表を行なわせていただき、DIPCON2009 での発表論文を基にした論文が Journal of Environmental Sciences に、地球環境シンポジウムのタイのテーマを発展させた論文が Water Science and Technology に掲載された他、数編を投稿、執筆中です。

家庭で行うことができる生活排水対策については、自治体、環境 NGO 等により個々の要素手法についての検討が国内では相当以前から行われており、啓発活動等も行われてきておりましたため、国内では相当程度普及しているように思われます。大和川流域では、ワースト河川からの脱出を目標に置き、ハードとしての生活排水対策に加えて、家庭での汚濁負荷排出量削減対策、河川浄化施設の整備等を集中的に行い、ここ数年は、環境基準を達成する地点が増加する等の成果も達成されています。大和川流域の C プロジェクト計画でも述べられているように、大和川流域の活動の成果が国内の他の流域でも活用されることが望まれるとともに、ハードの整備についての資金が必ずしも十分ではなく、迅速に達成することが見込まれない途上国の流域等に普及していくことになれば、今回の授賞についても望外の喜びとなると考えております。



受賞者からのメッセージ：地球環境貢献賞を受賞して

白川 元(茅野商工会議所 専務理事)

第18回地球環境シンポジウムにおいて、当所(茅野商工会議所)が取り組んでいる「信州・車山高原アンチエイジングトレッキング」が平成22年度地球環境貢献賞に選ばれ受賞したことを大変嬉しく思っております。これも本事業の中心となり、ご指導いただいている諏訪東京理科大学の奈良松範教授のおかげであり、衷心より感謝申し上げます。



さて、長野県茅野市は蓼科高原とも呼ばれる観光地ですが、バブル崩壊以降、観光客は年々減少の一途を辿っており、商工会議所の専務理事という立場からも非常に強い危機感を感じておりました。そのような中で奈良松範教授との出会いがあり、奈良教授の研究を観光活性化に活かし、さらに地球環境へ貢献できるような取り組みは出来ないかと相談したことがそもそものきっかけであります。

このアンチエイジングトレッキングとは、「老化防止や年相応の健康を維持する為のトレッキング」であり、その効果に大きく作用するのが森林や草原から発生する「フィトンチッド」と呼ばれるガスです。現在、奈良教授が長年に亘り調査・研究を行ってきたデータを基に、パソコンを利用したサポートシステムを開発しています。本システムにより、お客様一人ひとりに合わせたトレッキングの推奨ルートが提示され、アンチエイジング効果や体に悪影響を及ぼす活性酸素の除去量がグラフや数値で表示されます。

モニター調査でも、今まで漠然としていたアンチエイジング効果が数値で分かる点について、大変好評価をいただいております。何より車山の山頂からは八ヶ岳や富士山などが一望でき、都会から来たお客様は、東京や名古屋から2時間程度でこんなに素晴らしい場所があったのかと大変喜んでいらっしゃいました。また、歩くだけでなく体の内側からもアンチエイジングをしようという試みで、抗酸化野菜を使った「グリーンフードコンテスト」も開催しました。地元農家の野菜直売所なども大変人気ですのでお越しいただいた際は是非お立ち寄りいただければと思います。

皆様が自然の中でリフレッシュしていただくことと同時に、自然の大切さ、尊さを感じていただけることを願っております。

土木学会全国大会研究討論会のご報告

地球環境委員会 幹事長 村尾 直人(北海道大学)

地球環境委員会は、2007 年～08 年に時限付き特別委員会として設置された地球温暖化対策特別委員会の運営主体として活動してまいりました。その活動をうけて、平成 20 年度(2008 年) 7 月 2 日に地球温暖化対策特別委員会との共催によるシンポジウム「土木工学は地球温暖化問題に如何にして挑むのか？」を開催しましたが、土木学会全国大会においても、仙台（平成 20 年度）、福岡（平成 21 年度）、札幌（平成 22 年度）の各大会において、「地球温暖化対策－土木学会はいかに行動すべきか－」と題する研究討論会を開催してきたところです。いずれの研究討論会でも 100 名前後の多数の参加をいただき、会員の高い関心を実感しました。3 回にわたった研究討論会も一段落しましたので、今後の展開に向けて、これまでの開催をまとめておきたいと思います。



まず仙台（平成 20 年度）大会では、石井弓夫地球温暖化対策特別委員会委員長から特別委員会の設置とその活動について「なぜ、このような行動を行わなければならないのか」が述べられ、その後、三村信男温暖化影響小委員長、花木啓祐緩和策小委員長、沖大幹適応策小委員委員から、それぞれの小委員会が取り組む内容について講演をいただきました。

さらに地球温暖化対策特別委員会報告書（平成 21 年 5 月発行）の発行を受け、本委員会では、報告書に関連した研究討論会を企画することとし、まず平成 21 年度(2009 年) に福岡で開催された大会において、適応策に関する研究討論会を開催しました。講演は以下のとおりです。

- (1) 特別委員会において提示された内容の概要 荒巻 俊也（東洋大学国際地域学部）
 - (2) 土木材料および土木施設からの温室効果ガスの排出量削減 曾根 真理（国土技術政策総合研究所）
 - (3) 低炭素エネルギー技術の開発と支援 大石 和人氏（東京電力（株）技術開発研究所）
 - (4) 都市・交通計画による低炭素都市システムの構築 森本 章倫（宇都宮大学大学院工学研究科）
- 平成 22 年度(2010 年) に札幌で開催された研究討論会では、適応策に焦点をあて、以下の講演をいただいた。
- (1) 温暖化適応策小委員会における検討内容の概要説明 山田 正（中央大学理工学部）
 - (2) 温暖化適応策への水工学からの寄与 井上 智夫（(財) リバーフロント整備センター）
 - (3) 温暖化適応策への海岸工学からの寄与 横木 裕宗（茨城大学工学部）
 - (4) 温暖化適応策への環境工学からの寄与 佐藤 弘泰（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

地球温暖化対策特別委員会の活動をうけた研究討論会はこれで一段落と考えておりますが、今後も何らかの形で研究討論会を継続して行きたいと考えております。2010 年は世界各地で様々な気象災害があった年でした。また、名古屋での COP15 開催を契機として、生物多様性や生態系保全が強く認識された年でもあり、我々が取り組んで行くべき過大・活動として、今後は気候変動と生物多様性が両輪になってゆくと思われます。低炭素社会に向けた動きが、真に継続的かつ組織的なものになるよう、地球環境委員会ではこれまで以上に、その推進役を果たしていきたいと考えております。引き続き、ご支援をお願いする次第です。

第 19 回地球環境シンポジウムについて

第 19 回地球環境シンポジウム 実行委員会 幹事長

桑原 祐史(茨城大学 広域水圏環境科学教育研究センター)

第 19 回(社)土木学会地球環境シンポジウムは、平成 23 年 9 月 15 日(木)および 16 日(金)に、茨城大学水戸キャンパス(茨城県水戸市)で開催することを旨として準備を進めています(詳細は土木学会誌 2 月号会告を参照ください：実行委員会委員長 三村信男 茨城大学教授，副委員長 横木裕宗 茨城大学准教授)。

シンポジウムでは、全文審査論文(A 論文)およびアブストラクト審査論文(B 論文)の口頭発表とポスターセッションを開催し、討論を活発に行う予定ですので、是非多数の投稿をお願いします。また、①民間企業などの地球環境関連技術の紹介

(技術展示)、②国や地方公共団体、NGO、教育機関などの地球環境調和や持続可能な社会形成などに関連した取り組みや活動の紹介(一般展示)も例年通り行います。

これに加えて、タイムリーな話題での企画セッションの開催を予定しています。企画セッションのテーマを募集していますが、シンポジウム実行委員会では、「最新の IPCC

の動向と第 5 次報告書の見通し」、「わが国の研究プロジェクトと環境政策の関連」といったテーマが候補に上がっています。地球環境研究のベースとなる研究情報の講演と情報交換の場として、参加者の皆様に興味を持っていただける企画を設けたいと考えております。

論文の投稿については、本年は変更があるので、ご注意ください。

論文集電子投稿システムが新規更新されるため、安定した稼働の確保のために準備期間を要します。このため、全文審査論文およびアブストラクト審査論文ともに、締切日は 3 月 31 日(木)になっており、例年より遅い締切となります。皆様の積極的な投稿と第 19 回地球環境シンポジウムへのご参加を心からお待ちしております。

最後になりますが、第 19 回地球環境シンポジウム開催場所である茨城大学水戸キャンパスへのアプローチ方法を図-1 に示します。また、論文投稿、セッション企画およびポスター申請等、諸々のお問い合わせは、下記、土木学会地球環境委員会事務局担当(二瓶様)までお願い申し上げます。



水戸地区(人文学部、教育学部、理学部、図書館、事務局等)配置図

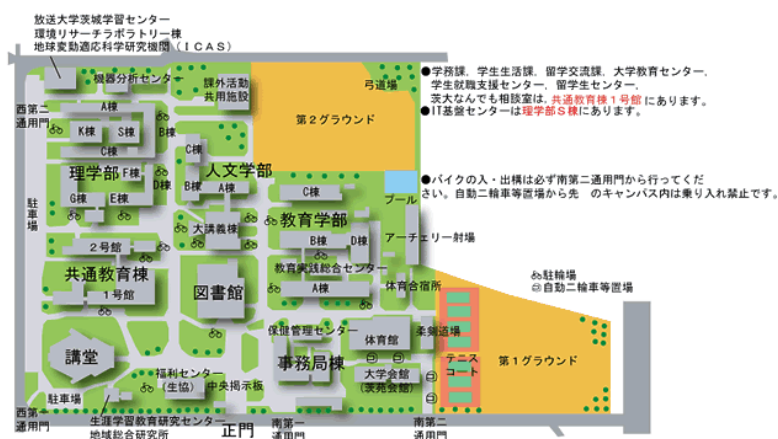


図-1 茨城大学 水戸キャンパス

引用：http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/index.html

【申込先および問合せ】 土木学会地球環境委員会 事務局担当：二瓶

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目 (外濠公園内)

TEL：03-3355-3559/FAX：03-5379-0125, E-mail：snihei (アットマーク) jsce.or.jp

詳細 http://www.jsce.or.jp/committee/global/

政策研究小委員会の創設

政策研究小委員会 小委員長 荒巻俊哉(東洋大学 国際地域学部)

昨年10月に、地球環境に関わるさまざまな政策について土木関連分野でどのような研究が必要かということを議論し、今後の土木業界の地球環境問題への貢献の方途を研究することを目的として新たに政策研究小委員会が始まりました。本小委員会立ち上げのきっかけは、宮本氏をはじめとした地球環境委員会で活躍されてきた民間企業の委員の方々の議論の中から生まれたものです。



土木学会では、地球環境委員会が中心となって2年前に特別委員会の中で地球温暖化に対する提言をまとめました。そこでは、土木学会および業界が考えるべき事、行うべき事が網羅的にまとめられています。その後も中期目標の策定など地球温暖化の問題をはじめとした地球環境問題に関する世界の動きは活発である一方で、経済環境が停滞する中、土木学会の取組が進展したという実感はあまりありません。インフラという長寿命な製品を扱うという観点から、長期的な対策で土木業界の取組の重要性はこれまでも多く指摘されてきていますが、これを前進させていくうえでも、具体的な業界や社会の動きを作り出していく政策という視点がより重要となります。

そこで本小委員会では、まず環境政策の最前線にいらっしゃる方からその動向について最新の情報について勉強し、今後の土木業界として重要となる政策の動向や土木が果たすべき役割などについて整理をしていくことから始めています。1月27日には第2回のワークショップを実施する予定です。現在20名強の方がワークショップに委員として参加しております。地球環境問題に関心がある大学等の研究者、コンサルタント、ゼネコンなどのエンジニア、関連する国の機関や自治体の職員など、どなたでも歓迎ですので、関心のある方は下記までご連絡ください。

問合せ先：宮本善和（中央開発株式会社 関東支店）E-mail：miyamoto@ckcnet.co.jp TEL：048-259-6313

第1回ワークショップ報告

文責：㈱エックス都市研究所 山崎智雄

第1回ワークショップは平成22年10月28日夕刻から土木学会会議室において開催し、委員20名（参加率87%：大学3名、建設会社5名、コンサルタント11名、NPO1名）が集まった。講師として環境省から高橋康夫地球温暖化対策課長に来ていただき、「最新の地球温暖化対策状況と『土木』に期待すること」をテーマとして、「環境未来都市」構想などを含む最新の温暖化対策の現状などに関するご講演を頂いた。その後、メンバーの各立場からのニーズやシーズ、思いなどを意見交換した。講師は1983年に土木職として環境省（当時は環境庁）に入省、廃棄物行政等を経て現在は温暖化対策の第一線で活躍されており、まさに事業仕分けなどでご多忙な中、本小委員会のために時間を割いて頂いた。温暖化対策に関して『土木』に期待することとしては、「低炭素まちづくり」や「二国間・多国間メカニズム」、「再生可能エネルギー」などのキーワードが挙げられた。ワークショップの後、高橋講師にも来ていただき交流会を会費制にて企画したところ、参加者の約9割が参加し、白熱した議論が遅くまで続いた。まずは第1回ということで、各メンバーの立場や本小委員会への期待などにバラツキがあるものの、最終的な目標の一部を共有でき、大変意義のあるワークショップになったと感じられる。一方、今後どのような領域にどのように関わっていくべきか、何を具体的なミッションとすべきか、などについては引続き議論が必要であらう。

地球環境委員会 委員長・委員・幹事の公募について

地球環境委員会 幹事長 村尾 直人(北海道大学)

土木学会地球環境委員会では、委員長、委員および幹事候補者を広く会員諸氏から公募いたします。つきましては以下の公募要領にしたがい、多数応募下さいますようお願い申し上げます。委員長、委員および幹事の任期は2年と定めています。特に、委員および幹事につきましては、委員会活動の円滑な継続を図るため1期毎に半数交代することにしており、多くの委員および幹事の任期は実質的に2期4年になります。委員会内規、委員会の活動内容等の詳細につきましては、土木学会地球環境委員会ホームページ<<http://www.jsce.or.jp/committee/global/>>を参照下さいますようお願い申し上げます。なお委員長、委員および幹事は本年度の最終委員会（2011年3月に開催予定）において決定され、2011年4月1日から就任頂きます。

●地球環境委員会「委員長」候補者の公募

- 1) 公募 数：1名
- 2) 応募資格：土木学会フェロー会員あるいは正会員であり、地球環境委員会活動の意義と内容について理解し、それに貢献できる方。
- 3) 応募方法：下記の事項を記載した文書を、任意の方法で土木学会事務局宛送付下さい。
 - ・氏名、所属・部署、連絡先（住所、TEL、FAX、Eメール）
 - ・地球環境委員会の活動に関連する分野での活動歴
- 4) 応募期日：2011年2月28日（月） 必着

●地球環境委員会「委員」及び「幹事」候補者の公募

- 1) 公募 数：委員数名、幹事数名
- 2) 応募資格：土木学会フェロー会員、正会員あるいは学生会員であり、地球環境委員会活動の意義と内容について理解し、それに貢献できる方。
- 3) 応募方法：下記の事項を記載した文書を、任意の方法で土木学会事務局宛送付下さい。文書には「委員」または「幹事」のどちらに応募か明記して下さい。
 - ・氏名、所属・部署、連絡先（住所、TEL、FAX、Eメール）
 - ・略歴
 - ・応募の理由（400字程度）
- 4) 応募期日：2011年2月28日（月） 必着

●書類の提出先および問合せ先

土木学会地球環境委員会 事務局担当：二瓶
〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）
TEL：03-3355-3559／FAX：03-5379-0125
Eメール：nihei@jsce.or.jp

地球環境委員会 平成 22 年度 委員会・幹事会の構成

■委員長・副委員長・幹事長

委員名	氏 名	所 属
委員長	太田 幸雄	北海道大学
副委員長	山田 正	中央大学
幹事長	村尾 直人	北海道大学

■顧問

委員名	氏 名	所 属
顧 問	青山 俊介	(株)エックス都市研究所
顧 問	北田 敏廣	豊橋技術科学大学
顧 問	松岡 譲	京都大学

■委員メンバー

委員名	氏 名	所 属
特別委員	溝 宏樹	国土交通省 大臣官房 技術調査課
特別委員	室石 泰弘	環境省 大臣官房 地球環境局
特別委員	沼田 博男	経済産業省 原子力安全保安院
委 員	市川 陽一	龍谷大学
委 員	大西 文秀	(株)竹中工務店
委 員	大野 文良	清水建設(株)
委 員	桑原 祐史	茨城大学
委 員	小池 勝則	鹿島建設(株)
委 員	那須 清吾	高知工科大学
委 員	奈良 松範	諏訪東京理科大学
委 員	藤原 靖	大成建設(株)
委 員	松嶋 太	建設技術研究所
委 員	吉津 洋一	関西電力(株)
委 員	山崎 智雄	(株)エックス都市研究所
委 員	山田 和人	パシフィックコンサルタンツ(株)

■幹事メンバー

(50 音順)

幹事名	氏 名	所 属
特任幹事	松下 潤	芝浦工業大学
特任幹事	松本 亨	北九州市立大学
特任幹事	宮本 善和	中央開発(株)
幹 事	川原 博満	(株)計量計画研究所
幹 事	荒巻 俊也	東洋大学
幹 事	池野 正明	(財)電力中央研究所
幹 事	伊藤 一教	大成建設(株)
幹 事	倉田 学児	京都大学
幹 事	松村 寛一郎	関西学院大学
幹 事	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学
幹 事	藤原 健史	岡山大学
幹 事	古川 恵太	国土技術政策総合研究所
幹 事	真鍋 章良	復建調査設計(株) 5月退任
幹 事	室町 泰徳	東京工業大学
幹 事	山下 隆男	広島大学
幹 事	米田 稔	京都大学

※詳細は下記、地球環境委員会ホームページをごらんください。

http://www.jsce.or.jp/committee/global/gaiyou/iinkai_gaiyou02.htm

■地球環境委員会からのお知らせ

●論文締切日が変更されます

第19回地球環境シンポジウムについての本号の紙面で、桑原実行委員会幹事長のご案内されておりますように、論文の投稿については、本年は変更がありますのでご注意ください。

論文集電子投稿システムが新規更新されるため、安定した稼働の確保のために準備期間を要します。このため、全文審査論文およびアブストラクト審査論文ともに、締切日は3月31日(木)になっており、例年より遅い締切となります。皆様の積極的な投稿と第19回地球環境シンポジウムへのご参加を心からお待ちしております。

また、論文投稿、セッション企画およびポスター申請等、諸々のお問い合わせは、土木学会地球環境委員会事務局担当(二瓶様)までお願い申し上げます。

●地球環境委員会 委員長・委員・幹事の公募について

村尾幹事長が本号でご案内されておりますように、土木学会地球環境委員会では、委員長、委員および幹事候補者を広く会員諸氏から公募いたします。つきましては紙面の公募要領にしたがい、多数応募下さいますようお願い申し上げます。委員長、委員および幹事の任期は2年と定めています。特に、委員および幹事につきましては、委員会活動の円滑な継続を図るため1期毎に半数交代することにしており、多くの委員および幹事の任期は実質的に2期4年になります。委員会内規、委員会の活動内容等の詳細につきましては、土木学会地球環境委員会ホームページ<<http://www.jsce.or.jp/committee/global/>>を参照下さいますようお願い申し上げます。なお委員長、委員および幹事は本年度の最終委員会(2011年3月に開催予定)において決定され、2011年4月1日から就任頂きます。諸々のお問い合わせは、土木学会地球環境委員会事務局担当(二瓶様)までお願い申し上げます。

【編集後記】新年、明けましておめでとうございます。

ニュースレター46号、新年号をお届けいたします。昨年はニュースレターの編集や第18回地球環境シンポジウムの開催にご支援を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

発行：(社)土木学会 地球環境委員会
〒160-0004
東京都新宿区四谷1丁目
外濠公園内

- 地球環境委員会についての問合せ先
事務局担当 二瓶貞洋
TEL:03-3355-3559 FAX:03-5379-2769
- ニュースレターについての問合せ先
第46号編集責任者 大西文秀
E-mail : ohnishi.fumihide@takenaka.co.jp